



宿題をめぐる悲劇を生まないために

Aさんは小学3年生。学校から帰るとおやつを食べながら早速ゲーム開始。一度やり出すとやめられず、母親に「宿題は？」と声をかけられ、渋々ランドセルを開けます。この日は、小テストで間違えた漢字をノートに10回ずつ書くというもの。Aさんは10問中7問が不正解でした。

ところが、始めるとすぐ水を飲みに立ち上がり、その後はトイレに。洗面台の鏡の前では変顔の研究。母親に促されて戻り、鉛筆を握るも書いては消しの繰り返し。すると今度は消しゴムのカスを集めて手すら。見かねた母親がついてやらせませんが、極端に崩れた字で、その都度書き直しの指示。一向に進みません。下の子に「夕ご飯は？」と急かされ、母親が台所に向かうとさらにペースダウン。結局、夕食までには終わりません。

夕食後、観たいテレビも我慢となり、母親からは「早く書いて」「もっと丁寧に」と言われ続け、おまけに臉も重くなってきて、やる気はさらに低下。ならば、と先に風呂に入ると、これがいつになっても出てきません。母親に叱られ、ようやくパジャマ姿で再挑戦です。



9時を回るころ、父親が帰宅。すると食事をとる父親とひとしきりおしゃべり。もう遅い時間だからと、先に明日の準備をすることになるのですが、時間がかかり…。やっとノートに向かうも、10時を過ぎると本格的に睡魔に襲われます。眠い目を擦りながら書けるはずもなく、次第に涙目に。父親からも、「グズグズやってるから、お父さんはテレビも観られない」と責められます。すると母親は自分の方がAさんのことで何倍も苦労していると主張し、にわかに陰悪ムード。母親に、「もういい。このまま学校に行って、先生に叱られなさい」と言われ、遂に泣き出してしまいます。「おい、何泣かせてるんだ」「じゃあ、あなたが見てあげれば？」夫婦げんか勃発です。その片隅では、下の子がスースーと寝息を立てています。

さて、この事例から、あなたはどんなことを考えましたか。

- …「困ったAさんだ」「こういう子、いるよね」「注意集中困難と不器用さ、発達障がいかな？」
- では、あなたがAさんの担任だとしたら、翌日、Aさんにどんな指示を出しますか。
- … 明日再提出させる、休み時間返上で今日中にやらせる、注意するが指示は出さない など

ここで大事なことは、Aさん自身の問題として捉えるだけでなく、**教師が宿題の出し方をいかに工夫改善すれば、勉強嫌い・学校嫌いに繋がりにかからないこうした事態を招かずに済むか**を考えることです。集中力や筆記力が求められる今回の宿題は、Aさんには相当苦痛でした。しかも正答の少ない、漢字が苦手な子ほど負担が大きくなっています。この宿題のねらいは、「苦痛に耐えること」や「こりごりな思いをさせること」ではないはずで

こうした点を踏まえて宿題の出し方を見直していきます。具体的には、間違えた漢字を●回以上ていねいに書く、1つにつき●分間以上書く（●の値は教師が設定、実際の回数・時間は子どもが決める）などが考えられますが、**書くことで覚えやすい子もいれば、そうでない子もいます。様々な覚え方を教師や子どもたちが皆に紹介し、各自が自分に合った覚え方を意識して取組み、再度テストを行ってリベンジの機会を与える方法**もあります。

なお、宿題に限らず、授業中の終わらない分の学習を**休み時間にやらせる指導は、子どもに保障すべき貴重な休み時間を奪うもの**であり、「百害あって一利なし」です。仮に、子どもが自主的にやると主張するような場合でも、気分転換してONとOFFの区別をつけることの大切さは指導したいものです。